

プレスリリース

2020年8月7日

FTSE
Russell

サステナブル投資戦略の基盤としてスマート・ベータ・インデックスを使用するアセットオーナーが世界的に増加

- FTSE Russell が 2020 年に実施した調査によると、世界のアセットオーナーの 58%がスマート・ベータ戦略にサステナビリティの要素を加味すべく検討中（2019 年は 44%）
- 欧州、中東およびアフリカ（EMEA）のアセットオーナーはサステナブル・スマート・ベータへの関心で先行しており、北米のアセットオーナーはこれに急迫
- アセットオーナーは、ネガティブ・スクリーニングではなく、サステナビリティ基準に基づくウェイト調整を選好
- サステナビリティ要素の加味を評価または実施しつつあるアセットオーナーの間では、株式（85%）、債券（58%）、マルチアセット（31%）の順に関心が高い

インデックス、データおよび分析ツールの世界的なプロバイダーである FTSE Russell は、スマート・ベータ戦略とサステナブル投資の融合に関する調査結果、「[スマート・サステナビリティ：アセットオーナーを対象としたグローバル調査の結果（2020年）](#)」を発表しました。

FTSE Russell のサステナブル投資データ&メソドロジー部門責任者、Jaakko Kooroshy 氏のコメント：

「当社が 4 年前にサステナブル投資について調査を開始して以来、短期間に極めて高い関心が多数寄せられ、より詳細な分析を行う必要があることを痛感するに至りました。今年の調査では、サステナビリティの要素をスマート・ベータ戦略に加味すること、すなわち当社でいうスマート・サステナビリティに対する関心が世界のアセットオーナーの間で大きく高まっていることに注目しています。これは当社顧客である投資家からの要請にも反映されており、投資家は、ポートフォリオ戦略の基盤とするため、サステナビリティ要素をこれまで以上にスマート・ベータ・インデックスに組み込もうとしています」

ロンドン証券取引所グループのサステナブル事業部門責任者、David Harris 氏のコメント：

「2020 年前半は新型コロナウイルスの感染が世界的な広がりを見せていること、社会的な公正さへの関心が高まっていることから、投資戦略や優先順位の大幅な見直しにつながっています。最近の出来事により、投資家は環境や社会的ファクター、国際的な協力、そして金融市場に対するこうした事



London
Stock Exchange Group

項の潜在的影響をより重視するようになりました。こうした大きな変化を考慮すると、気候やサステナビリティ上の優先事項とスマート・ベータを結合させることは、アセットオーナーにとって一層重要な注目の的となる可能性があります」

世界的な増加傾向

今年は、世界のアセットオーナーの10社中7社以上が投資戦略へのサステナブル投資の組み入れを評価し、実施に移しつつあります。さらに、スマート・ベータ戦略を活用または評価しつつある世界のアセットオーナーのうち、58%はスマート・ベータ戦略にサステナブル投資の要素を組み込む予定です（2019年は44%）。スマート・ベータ戦略にサステナブル投資の要素を組み込む予定と答えた回答者の半数近くは、今後1~2年以内にサステナブル投資スマート・ベータへの配分を拡大する予定であるとしています。

運用資産額の大小を問わず、アセットオーナーのサステナビリティに関する評価や採用は拡大しているものの、規模の大きなアセットオーナーほど顕著な関心が見られました。運用資産残高100億米ドル以上のアセットオーナーのうち、80%がサステナビリティの組み入れについて評価を実施したか、すでに採用しています（2019年は54%）。

依然、EMEAのアセットオーナーが先行、北米のアセットオーナーはこれに急迫

EMEAのアセットオーナーで、今年サステナブル投資を評価し、採用したアセットオーナーの割合は85%であり、北米の63%を上回る状態が続いています。さらに、EMEAはスマート・ベータへのサステナビリティの組み入れでも依然リードしており、スマート・ベータを評価または活用しているEMEAのアセットオーナーの80%超は、スマート・ベータにサステナビリティを組み入れる意向を示しています（2019年は73%）。

しかし、2019年に浮き彫りとなった地域差は縮小しています。北米では、サステナブル投資のアプローチを評価し、実施するアセットオーナーの割合が63%となり、昨年から20パーセントポイント超増加しました。スマート・ベータを評価または活用する北米のアセットオーナーのうち、スマート・ベータへのサステナビリティの組み入れを予定しているアセットオーナーの割合は、2019年の17%から、2020年には42%へと大幅に増加しています。

環境ファクターが最大の懸念材料であり、ウエイトの見直しがネガティブ・スクリーニングに取って代わる

今年は気候リスクがアセットオーナーにとっての「ホット」なトピックになっています。スマート・ベータ戦略へのサステナビリティの組み入れを予定するアセットオーナーの間では、気候リスクと温室効果ガス排出量がサステナビリティに関するテーマの上位（64%）を占めており、これに環境全般が僅差で続いています（59%）。一方、ガバナンスと社会のテーマも幅広く関心を集めています（いずれも55%）。



さらに、サステナブル投資データの最も一般的な活用方法は、構成銘柄ウエイトの調整となっています。ネガティブ・スクリーニングの活用は、2019年の64%から2020年の48%へと顕著に低下する一方、サステナブル投資基準に基づく構成銘柄ウエイトの調整という、より高度なアプローチが2019年の36%から2020年には55%に増加しています。

すべての資産クラスで関心が高まる

サステナブル投資を評価または実施に移しているアセットオーナーの間では、世界的に株式への関心が高く（85%）、これに債券（58%）とマルチアセット（31%）が続いています。債券にサステナブル投資の要素を加味する動きは、以前は株式に比べて出遅れていたものの、とりわけ EMEA で加速しており、回答者の75%が現在、債券へのサステナビリティの要素の加味を実行または評価しています（北米は45%）。

2020年の調査は1月と2月に行われ、世界のアセットオーナー139社からご回答をいただきました。大半は北米（37%）、EMEA（37%）、アジア太平洋（21%）に拠点を有するアセットオーナーです。業態は様々で、政府機関（28%）、法人または民間事業会社（18%）、労働組合または業界横断型年金基金（12%）、非営利組織または大学（12%）が含まれます。その他の業態は保険会社、ソブリン・ウエルス・ファンド、医療機関、ファミリーオフィスなどです。

- 以上 -

Media contacts

Lucie Holloway (EMEA) +44 (0)20 7797 1126
Oliver Mann (EMEA) +44 (0)20 7797 1222

Tim Benedict (Americas) +1 917 582 0641
Jelena Nedelka (Americas) +1 929 228 6987

Sophie Mou (Asia Pacific) +852 2164 3267
Tina Wang (Japan) +886 2 8979 4868
Email: newsroom@lseg.com

Notes to editors:

About FTSE Russell:

FTSE Russell is a global index leader that provides innovative benchmarking, analytics and data solutions for investors worldwide. FTSE Russell calculates thousands of indexes that measure and benchmark markets and asset classes in more than 70 countries, covering 98% of the investable market globally.

FTSE Russell index expertise and products are used extensively by institutional and retail investors globally. Approximately \$16 trillion is currently benchmarked to FTSE Russell indexes. For over 30 years, leading asset owners, asset managers, ETF providers and investment banks have chosen FTSE Russell indexes to benchmark their investment performance and create ETFs, structured products and index-based derivatives.



プレスリリース



FTSE
Russell

A core set of universal principles guides FTSE Russell index design and management: a transparent rules-based methodology is informed by independent committees of leading market participants. FTSE Russell is focused on applying the highest industry standards in index design and governance and embraces the IOSCO Principles. FTSE Russell is also focused on index innovation and customer partnerships as it seeks to enhance the breadth, depth and reach of its offering.

FTSE Russell is wholly owned by London Stock Exchange Group.

For more information, visit www.ftserussell.com

**FTSE Russell AUM figures as of December 31, 2019*

© 2020 London Stock Exchange Group plc and its applicable group undertakings (the "LSE Group"). The LSE Group includes (1) FTSE International Limited ("FTSE"), (2) Frank Russell Company ("Russell"), (3) FTSE Global Debt Capital Markets Inc. and FTSE Global Debt Capital Markets Limited (together, "FTSE Canada"), (4) MTSNext Limited ("MTSNext"), (5) Mergent, Inc. ("Mergent"), (6) FTSE Fixed Income LLC ("FTSE FI") and (7) The Yield Book Inc. ("YB"). All rights reserved.

FTSE Russell® is a trading name of FTSE, Russell, FTSE Canada, MTS Next Limited, Mergent, FTSE FI and YB. "FTSE®", "Russell®", "FTSE Russell®", "MTS®", "FTSE4Good®", "ICB®", "Mergent®", "The Yield Book®", and all other trademarks and service marks used herein (whether registered or unregistered) are trademarks and/or service marks owned or licensed by the applicable member of the LSE Group or their respective licensors and are owned, or used under licence, by FTSE, Russell, MTSNext, FTSE Canada, Mergent, FTSE FI or YB. FTSE International Limited is authorised and regulated by the Financial Conduct Authority as a benchmark administrator.



London
Stock Exchange Group